

食を学び命を育む食愛プロジェクト～地域の農業資源を活用した食育活動～

食料環境科3年 安部、白田、平光、佐藤、我彦

1.学習の動機

新型コロナウイルスのまん延やロシアのウクライナ侵攻、その後に起こった急速な円安は物価の高騰を招きました。私たちの先輩は、暮らしが苦しく、その影響が食生活まで及んでいる親子に、少しでも楽しい食事や豊かな栄養を提供しようと考え、地元のNPO法人と連携しながら、子ども食堂を開始しました。4年目を迎えたこの活動を私たちも引き継ぎ、合計54回、延べ3000人以上もの子供たちに、美味しい食事やお弁当、さらに手作りパンなどを提供してきました。

ところが、昨年実施した子ども食堂の保護者30名へのアンケートから、新しい課題が見えてきたのです。1つは子ども達が自分の力で食材を手に入れる学びの場が欲しい。2つ目は、子ども達が食に興味を持つ機会が欲しい、という要望でした。

そこで私たちは、子ども食堂に集う子どもたちに、農業高校の宝物とも言える、実習農場を活用した学びを提供できないかと考えました。そして、自分たちで命を育みながら、食べ物や食材を学ぶ食育学習を進めたいと考え、食愛プロジェクトバージョン2をスタートさせることにしました。

学習の動機

新型コロナウイルスのまん延・ウクライナ侵攻・急速な円安は・・・

物価の高騰

学習の動機

4年目を迎えた活動・・・私たちも引き継ぎ

お弁当

パンなど

合計54回、延べ3000人以上

学習の動機

ところが、保護者30名へのアンケートから「新しい課題」が見えてきた

1. 子ども達が自分で手に入れる「学びの場」が欲しい
2. 子ども達が食に興味を持つ機会が欲しい

・子ども食堂に集う子ども達に農業高校の宝物・・・
実習農場を活用した学びを提供
・自分たちで命を育みながら・・・
食べものや食材を学ぶ食育学習を進める

食愛プロジェクト Ver.2 スタート!

2.学習目標

- 1.実習圃場を整備したこども農園を活用した「食を学び、命を育む活動」を提供する。
- 2.伝統野菜など農業資源を活用し食育活動を普及するとして、企業や大学と連携した学びを大きく広めます

3.学習計画

この学習を進めるため、こども農園の整備や栽培体験の実施など、2つの取り組みを計画しました。また、昨年の春からスタートした学習は、この図のように進め、町外への普及や、県外との交流にも取り組みます。

4.学習の成果

I.こども農園の成果

こども農園は本校にある500㎡の畑を整備し、

学習計画

昨年春からスタートした取り組み計画表

取り組み	令和5年	令和6年
こども農園	整備 ★★★ 播種・植え付け★★★★★ 栽培管理★★★★★ 収穫体験★★★★★	★★★ ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★
子ども食堂	お弁当★★★★★ 食事会★ 手作りピザ・パン★ 手作りお菓子★	★★★★★ ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★
食育活動	★ ★ ★	★ ★ ★
食育・食農活動	米沢栄養大と 協賛校	★★★★★ ★★★★★ ★★★★★

**町外への普及や
県外との交流にも取り組む!**

学習成果(こども農園)

本校にある500㎡の畑を整備・植え付けや収穫8回実施

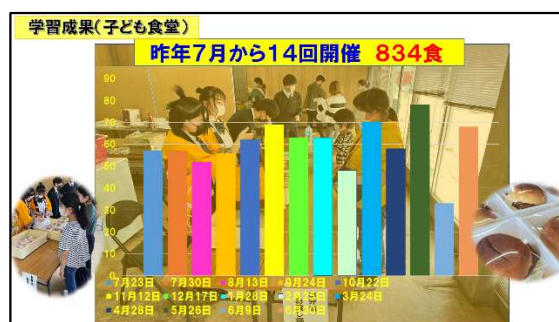
昨年5月20日: 紅大豆播種、ナス・トマト定植

植え付けや収穫体験を8回実施しました。昨年の5月20日に伝統野菜の紅大豆の播種と、ナスやトマトの定植。6月には玉ねぎやいちごの収穫。7月にはじゃがいもの収穫体験、10月にはサツマイモの収穫を開催。そして11月には秋野菜収穫を2回実施。今年も紅大豆の播種などを2回開催しました。こども農園では、初めて体験する子どもたちに、野菜を育て、命を育む大切さと楽しさを、丁寧に伝えました。これとは別に、夏休みの自由体験として、こども農園では夏野菜をいつでも収穫することができたため、子ども達は毎日のように訪れ、来園回数は延べ83回に達しました。さらに、生育状況を写真で発信し、子ども達や保護者から好評でした。以上のこども農園には8回で234名の親子が参加。

開催後の聞き取り調査では、子ども達からは、「野菜の栽培や収穫が楽しかった」「いろんな野菜の作り方を学んで勉強になった」「苦労して育て収穫した野菜の好き嫌いを止めようと思った」などの声があり、食を学び、命を育む学び効果が証明できました。さらに、あるお母さんからは「子どもがお家でトマトやピーマンの栽培を始めた。」という声も寄せられ、「自分で取り組む食への効果」も確認できました。

Ⅱ.農業資源を活用した食育活動の成果

紅大豆などの伝統野菜や、こども農園から収穫した野菜を利用した子ども食堂は、昨年の7月から14回開催し、834食のお弁当や食事、パンや焼き菓子を提供しました。その中でも、最大のテーマ、「こども農園で収穫した野菜を活用する食事」では、こども農園で育てた紅大豆などを利用したお弁当を試作し、食事会を迎えました。私たちの先輩である栄養士や大学生にも協力をいただき、紅大豆ご飯、紅大豆カレー、野菜の天ぷらや炒め物を調理し、楽しい子ども食堂を開催。子どもたちも積極的に協力して、食の楽しさや大切さを学ぶ機会になりました。開催後のアンケートでは、「自分たちで収穫した紅大豆や野菜がとっても美味しかった」、「嫌いな野菜も食べることができた」といううれしい声をたくさんいただきました。また、お母さん達からは「食育に役立つ子ども食堂をもっと開いて欲しい」という要望が寄せられました。この要望を受け、伝統野菜などを活用した子ども食堂を今年も開催しています。



Ⅲ.食育活動の普及や交流の成果

農業資源を活用した食育活動は、自分たちで紙芝居や人形劇、さらにカルタを制作、紙芝居「ヘルシーマジシャンCOOK」では、好き嫌いをなくすには伝統料理を守ろう。食育カルタでは紅大豆などいろいろな野菜の栄養分や食事の大切さ学ぼう、をテーマに、米沢栄養大学教授の安部貴洋先生にご指導を得ながら制作を進め、子どもたちの前で演じました。また、先輩で栄養士をめざす大学生にご指導をいただいた学習では、紅大豆の栄養成分や、こども農園の野菜を使った食事の栄養計算を学び、地元の食育団体と開催した食育教室で、子どもたちに食事の大切さを伝えることができました。

食育活動の普及では、依頼があった町内や米沢市内の学童保育を会場に3回開催。自分たちで制作した紙芝居や人形劇、そして食育カルタは子どもたちに大好評で、その後の食事会では「好き嫌いはいらない。」など、子どもたちの声を数多く聞くことができました。また、この活動は新聞でも取り上げられ、私たちの食育活動が地域に広まりました。

食育活動の交流では、東京都杉並区、豊島区での子ども食堂交流が実現。都会の子ども達との貴重な体験が、昨年12月に開催した「楽しい食事会」開催に繋がり80名もの親子に参加していただきました。

さらに、私たちが応募したパナソニック教育財団「こどもたちの“こころを育む活動”」では、198団体の中から優秀賞を受賞。東京で開催された表彰式では、審査員の東京大学教授、玄田有史先生から「子ども達の食育に農業の学びを取り入れた活動が素晴らしい。」と評価していただきました。

また、日本テレビの情報番組「ZIP」が紅大豆を活かした私たちの活動を取材。美味しい紅大豆スイーツの作り方が、全国に放送され、町内外の学童保育やこども園から食育活動の申し込みが数多く寄せられ、食育の輪が広がっています。



5. まとめと考察

- ①こども農園を8回開催し、延べ234人の参加を得ることで、こども農園のテーマ「食を学び、命を育む活動」と学びの場提供に大きな成果をあげることができた。
- ②こども農園から収穫した野菜を利用した子ども食堂を14回開催し、834食を提供することで「子ども達が収穫した野菜を活用する食育活動」が成果を上げた。
- ③食育活動の普及や交流を通して、紅大豆などの農業資源を活用した学びが成果を上げ、食育の評価や活動の拡大につながった。



6. 今後の課題

今後は、既に依頼が来ている米沢栄養大学や他の高校、さらに置賜総合支庁や川西町と共に「農業資源をキーワードにした」子ども食堂や食育活動を開催し、産官学民が連携する食愛プロジェクトの輪を、さらに拡大します。

以上の活動を、先日、吉村県知事にご報告する機会を得て、「これからも頑張ってくださいね。」と激励を受けました。私たちは、この言葉を励みに、農業高校で学んだ「食や命の大切さ」を子どもたちに伝える活動、そして農業資源を活用した食育活動を、県内外に広めます。

終わります。

